

立山・剣岳シリーズ タイトル「春の川より北アルプスを望む」

	<p>暖冬の年には、時々、このように「小春日和」の日が続くときがあります。まるで「冬」を忘れてしまいそうな天気です。魚津の「片貝川」へ行きました。</p> <p>ここからは、剣岳の北方稜線の山々が見えます、左右が「毛勝三山」、左が「僧ヶ岳」になります。やがて見える山々から海へ雪解けの水が流れるのです。</p>		<p>あまりによい天気なので、つい「黒部川」まで行きました。・・・ここからは、後立山連峰の朝日岳・白馬岳が見えるのです。富山では、川と山は切ってもきれない景色「縁」なのです。この源流はもちろん、有名な黒部ダムの上流です。</p>
	<p>しかし、3月にもなると、例年このように「雪解け」の水が勢いよく流れてきます。清らかな水が勢いよく流れる様は「雪国」ならではの光景です。写真の「早月川」の源流は、あの厳しい「剣岳」から流れてくるものです。</p>		<p>3月になると確実に春の足音が聞こえてきます。川のほとりに「ねこやなぎ」の芽が一斉に吹き出します。ねこやなぎに注ぐ太陽の光も次第に強さをましてきます。</p>
	<p>「剣岳」がもっとも近く見える川・・・それが上市川です。特にここ、「上市高校」の付近は絶好のポイントです。天候・時間によっては、ものすごく近く感じるときがあります。そんなときの「剣岳」は荘厳さ感じます。</p>		<p>「ねこやなぎ」こしに見える「春の剣岳」は、なんと優しいのでしょうか。いつもの厳しさをつい忘れさせてしまいます。</p>
	<p>川面に写る「ねこやなぎ」はとてもきれいです。あまりに光が強くて、「モノクロ調」になってしまいました</p>		<p>もう1枚、川面にきらきらと輝く「ねこやなぎ」をアップします。春の光を一杯にあびて・・・</p>

	<p>2月の下旬、本当によい天気・・・剣岳・馬場島へ向かいました。もうすぐ春とはいえ、まだまだ寒さは厳しいようです。剣岳を望むとまるで「冬」の景観を見せています。ここからは、道はまだないので、歩いて行かなければなりません。今回は、クロスカン트리ースキーで行くことにしました。</p>		<p>ほどよく雪が締まって、快適なコースが続きます。このように、川へ降りても一面の銀世界・・・どこでも、自由に歩くことができます。</p>
	<p>ようやく、馬場島へ着きました。さすがに、春の気配を感じます・・・出発した時はあんなに澄み切っていたのに、穏やかな天候のためにもう「はるがすみ」がかかって、「もやっ」としています。しかし、馬場島のこのポイントは「早月川と剣岳」がバランスがよく、素晴らしい景色ですね。</p>		<p>ここ馬場島でも春は目の前です。雪解けの川は、なぜか暖かく感じてしまいます。やがて、新緑になった頃は、「緑」と「雪」と「剣岳」のすばらしい景観のシーズンがやってきます。</p>
	<p>もう一度、馬場島へ行ってきました。しかし、山肌がきれいなのはこのときまで・・・これからのシーズンはもっとも怖い「雪崩」のシーズンに入ります。写真の手前の雪面もまもなく、雪崩の土砂で埋め尽くされてしまいます。午後は、あちこちで、雪崩の音が聞こえてくるようになりました。</p>		<p>最近では暖冬で、春の雪はほとんどありませんが、以前の豪雪の頃には4月でさえ大雪がありました。この写真は、そのときの貴重な作品です。 「春の片貝川から毛勝三山・僧ヶ岳を望む」とき： 4月8日 8：00頃 カメラ：RB6×7プロ フィルム：コダック EPR</p>
	<p>最後に、懐かしい「モノクロ写真」この写真の特徴は、手前の雪の「丸み」にあります。4月の暖かい光に照らされて、一晩に積もった大雪が朝の数時間で、あっというまに丸く解けてしまったのです。解けた雪の周りが凍って、朝日に輝いてまぶしく光っているのです</p>		